

取引環境と長時間労働の改善に向けた ガイドライン(紙・パルプ編)の骨子案について

1. 基本的な考え方

- とくに荷待ち時間の長い輸送分野に特化して、課題の洗出し、原因分析、課題の類型化を行った上で、課題解決のためにサプライチェーンの各関係者が取組むべき具体的な取組メニュー等を示すことで、サプライチェーン全体でトラック輸送の生産性向上や物流効率化に取り組むことを求め、当該輸送分野のトラック運送事業における取引環境の改善及び長時間労働の抑制の実現を目指す。
- 課題解決のためにサプライチェーンの各関係者が取組むべき具体的な取組みメニューについては、アドバンス事業（今年度の実証実験）や過去の実証実験の結果から一般化して提示する
- 本ガイドラインのサプライチェーン全体への周知方策や、来年度以降も引き続き課題解決に向けて取り組んでいく姿勢を提示する。

2. ガイドラインの骨子案

【まえがき】～現状と課題～

- 懇談会での意見や追加調査等から把握した現状を記載
- 課題を類型化して提示

反映

実態調査

アンケート調査

【本編】～課題に対する解決の方向性・具体的な解決方策～

- 類型化した課題ごとに解決の方向性を提示
- アドバンス事業や過去の実証実験の取組みから、解決策を一般化して提示
- アドバンス事業やヒアリング調査から具体的な取組み事例を紹介（効果、導入にあたっての留意点等）

反映

アドバンス事業

コンサルティング事業（H30）

パイロット事業（H28・29）

ヒアリング調査

【あとがき】～今後の取組み方針～

- サプライチェーン全体への周知方法等を記載
- 引き続き現状・課題把握や課題解決方策の検討を行うことを記載

「取引環境と長時間労働の改善に向けたガイドライン(紙・パルプ編)」

本編のイメージ

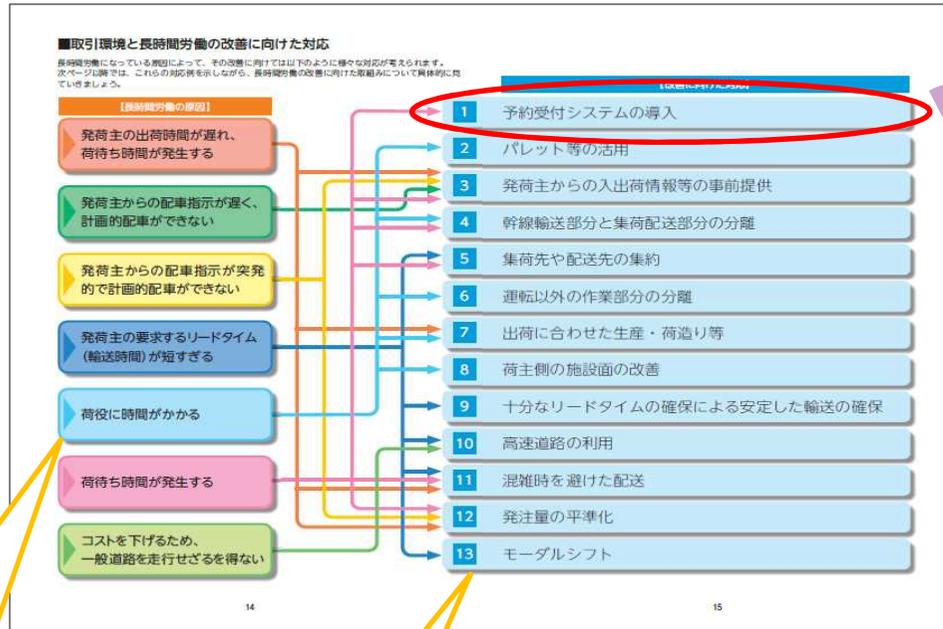
※現在調整中の事項もあるため、内容が変更となる場合がある。

【家庭紙物流における課題の特徴】

- 家庭紙製品は単価が安いいため、メーカーと卸売業者との間の幹線輸送においては、新たな設備投資コストを価格に転嫁しづらい中で、パレット化等の物流効率化に向けた取組みを進めていかなくてはならない状況にある。
- また、家庭紙製品は嵩張るため、規模の小さい小売店舗においては在庫を持つことができず、日々必要数量を配送する少量多頻度納品となっており、単価が安い (= 運賃が安い) ことと相まって、運送事業者の経営を圧迫している。

現状	課題	解決方策	
<p>幹線輸送の際に最大限積載効率を上げるために手積みでトラックの荷台を満載にする。当該作業及び手卸し作業に1.5~2時間かかっている。</p>	<p>作業時間がドライバーの荷待ち時間となるとともに、バースを長時間占拠することにより、他のドライバーの荷待ち時間にも影響を与えている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 卸業者の倉庫の形状等に応じたパレット受入対応方策の整理や、卸業者の声も反映したパレットの荷姿例の提示等を通じたパレットの導入・受入れの促進 	<p>【参考となる事例等】</p> <ul style="list-style-type: none"> • パレット導入・受入実証実験の結果を紹介
<p>手積み・手卸し作業の解消のため、パレット輸送が始まり、これにより、手積み・手卸し作業時間が、大幅に短縮された。</p>	<p>卸業者側において、パレットの導入はバースの長時間占拠の解消等のメリットもある一方で、そのままの荷姿では庫内設備が対応できないといった課題が発生している。</p>		
<p>荷卸し時間が同じ時間帯に重なる等により、限られた荷役スペースに多くのトラックが集中する。</p>	<p>長時間の荷待ち時間が発生している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 予約受付システムの導入 	<p>【参考となる事例等】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 予約受付システムの導入事例及びその効果、導入検討時の留意点等について紹介 • 荷待ち時間アンケート調査結果を参考資料として別冊に掲載
<p>小売店舗において、在庫スペースが少ないため、ほぼ毎日、必要数量を配送している。</p>	<p>少量多頻度納品となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • コンパクト製品の普及促進 	<p>【参考となる事例等】</p> <ul style="list-style-type: none"> • コンパクト製品に関する小売業者や消費者に対するアンケート調査結果を紹介
<p>狭隘な立地にある小売店舗では、適当な荷卸し場所がないことが多い。</p>	<p>店舗から離れた場所や、駐車禁止規制のある場所で荷卸し作業が行われている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • カゴ車の活用や共同配送ポイントの設置等 	<p>【参考となる事例等】</p> <ul style="list-style-type: none"> • カゴ車の活用や共同配送ポイントの設置等の事例調査結果を紹介

(参考)「取引環境と長時間労働の改善に向けたガイドライン」



課題解決方策ごとに参考事例を紹介

課題を類型化

課題に対応した解決方策

対応例 1 予約受付システムの導入

●先に到着したトラックから順番に荷積み・荷出しが行われる場合には、早い順番を取るために多くのトラックが集荷先・配送先に必要以上に早く到着する場合がありますが、荷出し・荷受けについては処理能力の制約があるため一定のペースで行えず、結果として、長時間の荷待ちが発生する可能性があります。

●こうしたケースでは、予約受付システムを導入・活用して、バース毎での荷役予定時間をあらかじめ決めることにより、

①トラック運送事業者による到着時間を越えた運行計画の策定
②発荷主側による庫内作業の準備が可能になり、荷待ち時間を減らすことができます。

●荷主にとっては、あらかじめ庫内作業の準備を進めることにより、荷受け作業を効率化することが可能になります。

事例① 一貫/レセプションと受付予約システムで発荷主滞在時間を短縮 (山崎製パン株式会社)

●発荷主が外販倉庫活用を前提とした生産計画の組み換えを行った
●元請事業者が入庫場・進捗管理システムを構築し、トラック運送事業者に公開した
●買運送事業者がシステムを活用して、ドライバーの出発時刻の調整を行った

事例② 外部倉庫と情報システム活用による荷待ち時間の削減 (株式会社)

●発荷主が外販倉庫活用を前提とした生産計画の組み換えを行った
●元請事業者が入庫場・進捗管理システムを構築し、トラック運送事業者に公開した
●買運送事業者がシステムを活用して、ドライバーの出発時刻の調整を行った